

スマートブリック・ウォールの特長

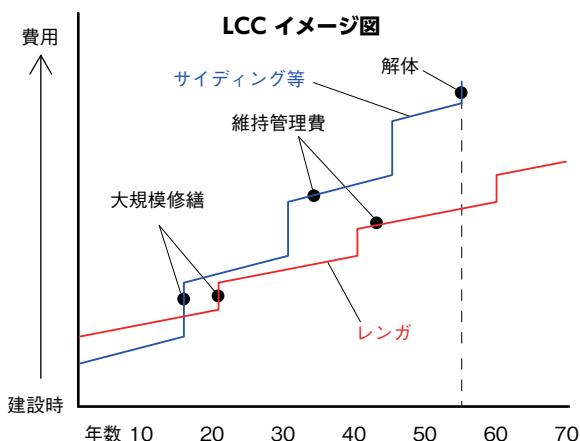


本物の焼き物だけが持つデザイン性

レンガの魅力は焼き物が本来持つ暖かさの他、雨や湿度、太陽光線の角度や強さによっても刻々と変わる豊かな表情などが、人を惹きつけるのだと思われます。最新の外装材で建てた住宅も10年を過ぎると汚れて補修や塗装が必要になります。それに対しレンガの住宅は半世紀を過ぎると「汚れ」というよりも「年期の入った表情」となります。セメントレンガや窯業系サイディングはこの表情を再現しているものが多く見られます。

コストはレンガの方が低い

レンガは窯業系サイディングなどに比べ、建設時の「インシヤルコスト」は高くなりますが、メンテナンスの費用がほとんどかからないので、ランニングコストも含めたライフサイクルコスト（LCC）はむしろ安く済みます。



半永久的な耐久・耐候性

レンガは紀元前2千年のメソポタミアの時代から建築材料として使われ、「レンガの歴史が長い」ということは、レンガを使って建てた建物の寿命が長く、建物と生活を共にする住人にも飽きられなかった結果といえます。日本でも明治時代以降、東京駅などの歴史的建造物で物理的な耐久・耐候性ととも「社会的な耐久性」でも実証されています。

※社会的耐久性：建物が街並みや景観として、いつまでも飽きることなく見るに耐えられること

使用材料の品質について

スマートブリック・ウォールのレンガは、大地から産出される良質の粘土を選定し、最新の工場（窯元）で成型・乾燥され、約1,100℃～1,300℃の高温で焼き上げます。天然ガスを燃料とすることによって、温度管理が正確に出来、品質が安定していることも特長です。

当社の金属レールは一般的なガルバリウム鋼板より性能の高い、「高耐食溶融めっき鋼板（商品名：ZAM）」を使用しています。その耐食性はガルバリウム鋼板に比べ5～8倍優れています。また、レールの断面形状がシンプルなので、現場での切断・加工などの施工性の良さが施工費の削減につながります。

